

2011 年生活実感アンケート集約結果の概要

生協労組おかやま
書 記 局

取り組み期間、回収実績等

2010年10月21日から各分会を通じて調査票を配布し、11月12日を回収締め切りとしました。有効回収枚数は正規144枚(回収率31.8%)、時給者589枚(回収率62.8%)、合計733枚でした。

正規・時給者の年齢別回収率は以下のとおりです。正規では45～49歳が35.4%(実構成26.7%)を占めています。30～44歳までの回収率は実際の構成比を下回っています。50～54歳は少人数ですが回収率は62.5%と高くなっています。

年齢構成	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上	計
回収	0.0%	0.7%	4.2%	5.6%	21.5%	18.8%	35.4%	10.4%	2.1%	1.4%	
実構成比	0.0%	2.4%	2.9%	9.9%	25.3%	27.1%	26.7%	5.3%	0.4%	0.0%	31.7%
年齢別回収率		9.1%	46.2%	17.8%	27.0%	22.0%	42.1%	62.5%	150.0%		

時給者では、50歳以上の回収が364枚で全体の61.8%を占めています。定年が65歳ということもあり60歳以上の回収が104枚17.6%あります。厚生年金の有無による有意な差はありません。

時間給者	19歳以下	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳以上	計
厚生年金有			3	9	14	17	31	54	53	59	240
構成比	0.0%	0.0%	1.3%	3.8%	5.8%	7.1%	12.9%	22.5%	22.1%	24.6%	100.0%
厚生年金無			3	10	20	49	69	79	74	45	349
構成比	0.0%	0.0%	0.9%	2.9%	5.7%	14.0%	19.8%	22.6%	21.2%	12.9%	100.0%
時給者合計			6	19	34	66	100	133	127	104	589
構成比	0.0%	0.0%	1.0%	3.2%	5.8%	11.2%	17.0%	22.6%	21.6%	17.7%	100.0%

集約結果の概要

(1) 年収は「増えた」「減った」は微減し「変わらない」が微増、生活実感は多少和らいでいる？

全体では「増えた」「減った」は微減し「変わらない」が微増(前年39.8%)していますが、正規では「増えた」が8.4%から4.9%になっています。7割を超える仲間が生活は「苦しい」と感じているが、「かなり苦しい」は1%減り「やや苦しい」が5.6%増、「まあまあだ」が6.4%増になっています。「ゆとりがある」との回答は大きな変化はありません。

2011年	正規	時給者	労組計
増えた	7 4.9%	51 8.6%	58 7.9%
減った	77 53.5%	269 45.5%	346 47.1%
変わらない	52 36.1%	245 41.5%	297 40.4%
わからない	8 5.6%	26 4.4%	34 4.6%
計	144 100.0%	591 100.0%	735 100.0%

生活実感	正規	時給者	労組計
かなり苦しい	40 27.8%	193 32.7%	233 31.7%
やや苦しい	65 45.1%	251 42.5%	316 43.0%
まあまあだ	32 22.2%	134 22.7%	166 22.6%
ややゆとりがある	6 4.2%	12 2.0%	18 2.4%
かなりゆとり	1 0.7%	1 0.2%	2 0.3%
計	144 100.0%	591 100.0%	735 100.0%

(2) 家計の現状は「支出の節約と貯蓄を減らし」ているが、充実させたいのは「老後の備え」がトップ

家計の現状では、「貯金を取り崩す」は正規・時給者とも減少し25.1%(前年30.7%)、「支出の節約と貯蓄に回す分を減らしている」は7.6%増加して27.5%(前年33.7%)となっています。「心配なし」との回答は3.8%にすぎませんでした。

家計支出の中で充実させたい項目は、第1位「老後の備え」27.0% 第2位「住宅購入・改善」13.2% 第3位「文化・教養・レジャー」12.5%となっています。正規では第2位が異なり「子どもの教育費」19.4%、時給者では第3位が「文化・教養・レジャー」となってい

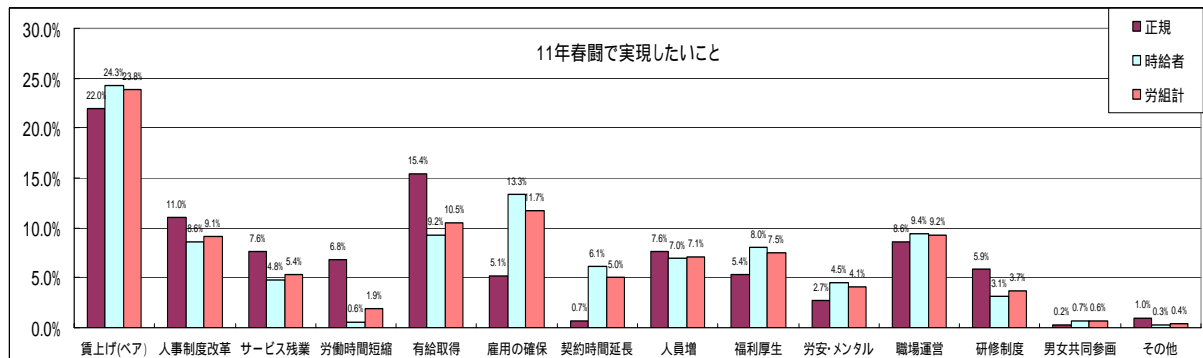
2011年	正規	時給者	労組計
支出切詰め・貯金取崩	19 13.4%	165 28.0%	184 25.1%
支出節約・貯金分減少	65 45.8%	237 40.2%	302 41.3%
収入は減らないが不安	50 35.2%	151 25.6%	201 27.5%
収入減らないし心配なし	5 3.5%	23 3.9%	28 3.8%
その他	3 2.1%	14 2.4%	17 2.3%
計	142 100.0%	590 100.0%	732 100.0%

ます。家族構成や年齢層の違いが現れているようです。

	食費	衣料品	住宅購入	老後の備え	文化教養	耐久財	小遣い	教育費	その他
正規	35 8.4%	20 4.8%	46 11.0%	97 23.3%	59 14.1%	39 9.4%	38 9.1%	81 19.4%	2 0.5%
時給者	207 12.0%	77 4.5%	236 13.7%	481 27.9%	208 12.0%	195 11.3%	144 8.3%	147 8.5%	32 1.9%
労組計	242 11.3%	97 4.5%	282 13.2%	578 27.0%	267 12.5%	234 10.9%	182 8.5%	228 10.6%	34 1.6%

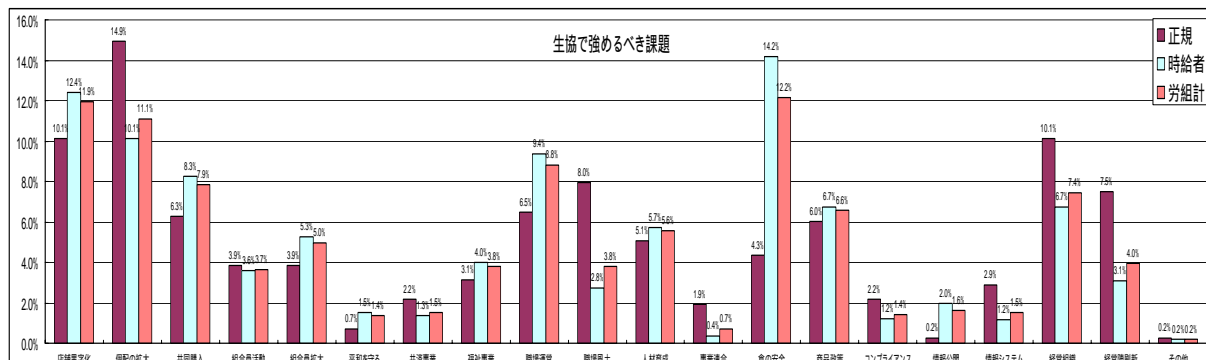
(3)11年春闘で実現したい項目は、引き続き「賃上げ(ベアの獲得)」がトップ

11年春闘で実現したい項目では、「賃上げ(ベアの獲得)」が23.8%で第1位、続いて「雇用の確保」が11.7%で第2位、「有休取得の向上」が10.5%で第3位でした。正規では「有休取得の向上」が第2位、「賃金・人事制度改革」が第3位でした。時給者では「雇用の確保」が第2位、「職場運営の改善」が第3位でした。



(4)「食の安全の強化」と事業課題がトップスリーだが、「職場運営」や「経営組織の見直し」も問題に

生協で強めるべき課題については、正規・時給者を合わせると「食の安全の強化」が12.2%で第1位、第2位は「店舗の黒字化」11.9% 第3位「個配の拡大」11.1%となります。事業経営の厳しさを反映して順位の違いはありますが事業課題が上位を占めています。正規では第1位が「個配の拡大」、第3位に「経営組織の見直し」10.4%、第4位「職場風土の改革」8.0%となっています。時給者では第1位が「食の安全の強化」ですが、第4位に「職場運営の改善」9.4%が上がっています。



(5)残業は増加傾向だけど「予算の関係でつけられない」？

残業問題は主として正規の問題です。9月の「残業なし」は正規で2.9% 時給者で79.2%です。正規では「20時間以上」が32.1%とトップですが、「80時間以上」との回答が2.4%(前年0.8%)あるのは気になることです。不払い残業は「なし」は正規で42.6% 時給者で79.2%でした。不払い残業になる理由は正規・時給者とも「予算の関係でつけられない」が第1位、第2位が「うるさく言われるのがいや」でした。正規では第3位が「自己啓発のつもり」でした。時給者では第3位が「課税限度内に調整」でした。

(6)正規の有給休暇取得は昨年よりも後退

「ほとんど取れる」は正規で13.0%(前年24.1%) 時給者で62.9%(前年71.2%)といずれも前年を下回りました。正規では「ほとんど取れない」が11.2%増加して68.1%になっています。11年春闘で実現したいことの第2位に「有休取得の向上」があがった背景でしょうか。

(7) 正規は69%が「展望なし」、時給者は59%が「展望なし」

生協運動の展望については正規・時給者に有意な差はなく、「展望がない」「やめたい」「働き続けたい」を合わせて、正規で69.1% 時給者で59.3%となっています。一方で「展望がある」は正規16.2% 時給者19.9%となっています。全国では「展望がない」は正規56.3% 時給者42.9%となっており、全国と比べて「展望なし」の割合が高くなっています。

生協運動について	正規		時給者		労組計
	おかやま	全国	おかやま	全国	
展望有続ける	14.1%	20.8%	17.3%	21.5%	16.7%
展望なく続ける	60.6%	46.3%	56.0%	40.1%	56.9%
展望有やめる	2.1%	2.0%	2.6%	2.6%	2.5%
展望なくやめる	8.5%	10.0%	3.3%	4.8%	4.3%
わからない	14.1%	20.9%	19.4%	30.9%	18.4%
その他	0.7%		1.4%		1.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

展望がない理由は正規・時給者とも第1位は「将来性と安定性に疑問」(正規28.7% 時給者26.9%)ですが、正規では「理事会の政策」が19.7%で第2位、「処遇・労働条件」が18.6%で第3位でした。時給者では「生協らしさ」が22.6%で第2位、「職場運営」が22.1%で第3位でした。正規では「生協らしさ」は18.1%で第4位でした。微妙な差ですが正規と時給者では若干意識に違いがあるようです。

	正規		時給者		労組計	
生協らしさ	34	18.1%	139	22.6%	173	21.6%
将来性と安定性	54	28.7%	165	26.9%	219	27.3%
理事会の政策	37	19.7%	91	14.8%	128	16.0%
職場の運営	25	13.3%	136	22.1%	161	20.1%
処遇他労働条件	35	18.6%	70	11.4%	105	13.1%
その他	3	1.6%	13	2.1%	16	2.0%
計	188	100.0%	614	100.0%	802	100.0%

(8) 正規で60%の仲間が「雇用不安がある」と回答

雇用不安については、実際の雇用問題は時給者に集中していますが、「ある」との回答が正規で60.8% 時給者で50.6%となっています。

(9) 職場での学習が喫緊の課題

消費税について、正規・時給者とも「5%」との回答が最も多いものの正規では「7%」との回答が22.8%に対して、時給者では5.7%となっており、有意な差が見られます。憲法9条の改定についての質問では、正規・時給者とも「改定すべきでない」が第1位ですが、正規では「改定すべき」が13.2%、時給者では4.8%と有意な差が見られます。「わからない」との回答がどちらも3割強あり、この間の学習不足が現れています。

正規の集約結果の概要

(1) 家計の収入源

2011年度の調査は別表のとおりです。「共働き(パート)」が35.4%(前年25.2%)で顕著な増加がみえます。「双方ともフルタイム」を加えると57.6%(前年50.4%)になります。

2011年	実数	構成比
単身	30	20.8%
1人で(扶養あり)	24	16.7%
共働き(一方パート)	51	35.4%
共働き(双方フルタイム)	32	22.2%
3人以上	3	2.1%
その他	4	2.8%
合計	144	100.0%

(2) 年収は前年に比べてどうか

「増えた」は4.9%と前年を3.5%、「減った」は53.5%と前年を9.5%下回り、変わらないが36.1%と前年を10.9%上回っています。

	増えた	減った	変わらない	分からない
2011年	4.9%	53.5%	36.1%	5.6%
2010年	8.4%	63.0%	25.2%	3.4%
2009年	6.9%	61.3%	25.8%	6.0%
2008年	7.0%	59.1%	27.0%	7.0%
2007年	7.9%	62.7%	19.2%	10.2%

この間の「定昇実施・一時金削減」は残業代を除くと、およそ48歳前後で年収が増加する人と減少する人に分かれると思われそうですが、年齢が上がるにしたがって「減った」との回答が増え45～49歳では56.9%、50～54歳では73.3%になっています。逆に「増えた」との回答は、年齢が下がるにしたがって増え、35～39歳では6.5%、30～34歳では12.5%になっています。

(3) 生活実感は？

「やや苦しい」が45.1%(前年37.8%)と増加している一方で、「かなり苦しい」が27.8%(前年31.1%)と減少、「かなり苦しい」と「やや苦しい」の合計は72.9%で前年の68.9%より4.0%増加しています。

	かなり苦しい	やや苦しい	まあまあだ	ややゆとり	かなりゆとり
2011年	27.8%	45.1%	22.2%	4.2%	0.7%
2010年	31.1%	37.8%	26.9%	3.4%	0.8%
2009年	35.6%	43.1%	19.0%	2.3%	0.0%
2008年	23.5%	44.3%	26.1%	6.1%	0.0%
2007年	29.9%	44.6%	20.9%	2.8%	1.7%

「ややゆとりがある」は4.2%(前年3.4%)と若干増加していますが、「まあまあだ」との回答が前年より4.7%減少しており、家計の苦しさを訴える声が増加しています。

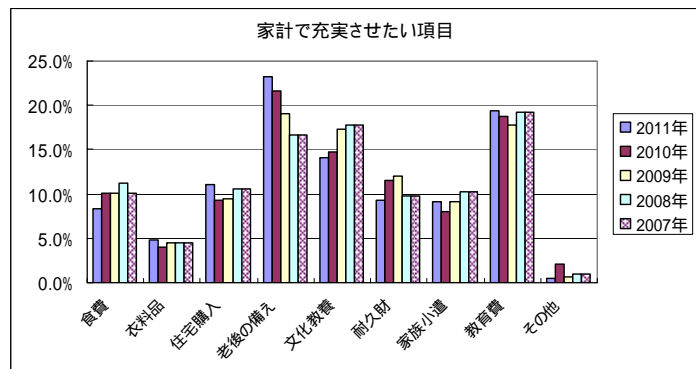
(4) 家計の現状はどれか？

2009年度から追加された項目です。「収入が減り支出の節約や貯蓄に回す分を減らしている」が45.8%(前年38.1%)、続いて「今のところ収入は減っていないが今後の生活に不安を感じている」が35.2%(前年32.2%)、「支出の大幅切り詰めや預貯金を取り崩している」は13.4%(前年22.0%)で6.5%減少し、09年との比較では12.7%も減少しています。「年収が変わらない」との回答が36.1%だったことを加味すると「今のところ…」との回答が35.2%はうなずけるところでしょうか。ただ、「貯金を取崩している」との回答が年々減少しているのは、収入に見合った生活レベルを切り下げたか、それとも取り崩す貯金が無くなったのでしょうか。

	貯金取崩	貯蓄減少	不安	心配なし	その他
2011年	13.4%	45.8%	35.2%	3.5%	2.1%
2010年	22.0%	38.1%	32.2%	5.9%	1.7%
2009年	28.2%	41.7%	16.2%	13.4%	0.5%

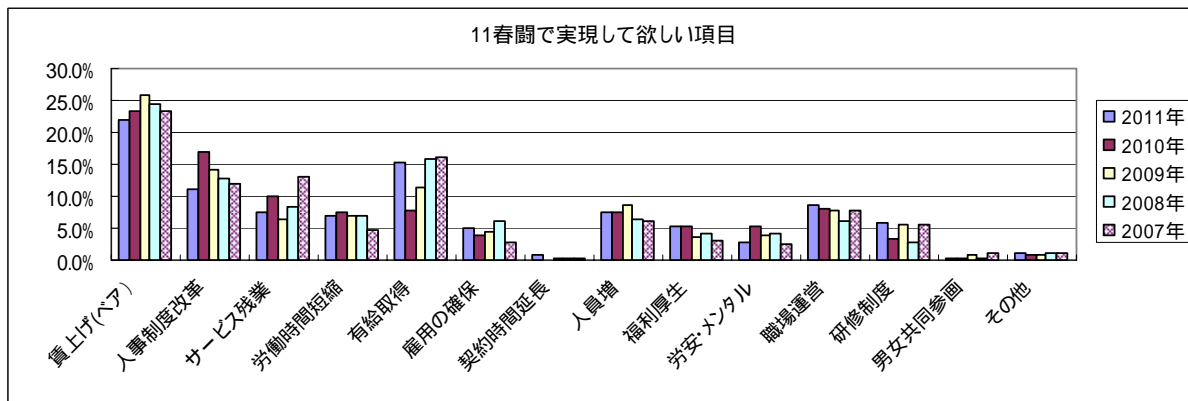
(5) 家計支出の中で充実させたい項目

第1位「老後の備え」22.3% 第2位「子どもの教育費」19.4% 第3位「文化・教養・レジャー費」14.3%の順で、2009年以降順位は変わっていません。2007年・2008年は「子どもの教育費」「文化・教養・レジャー費」「老後の備え」の順でした。「老後の備え」が第1位になったのは、職員の高齢化と年齢の高いその回収率が高かったからでしょうか。第4位は「住宅の購入」10.4%でした。



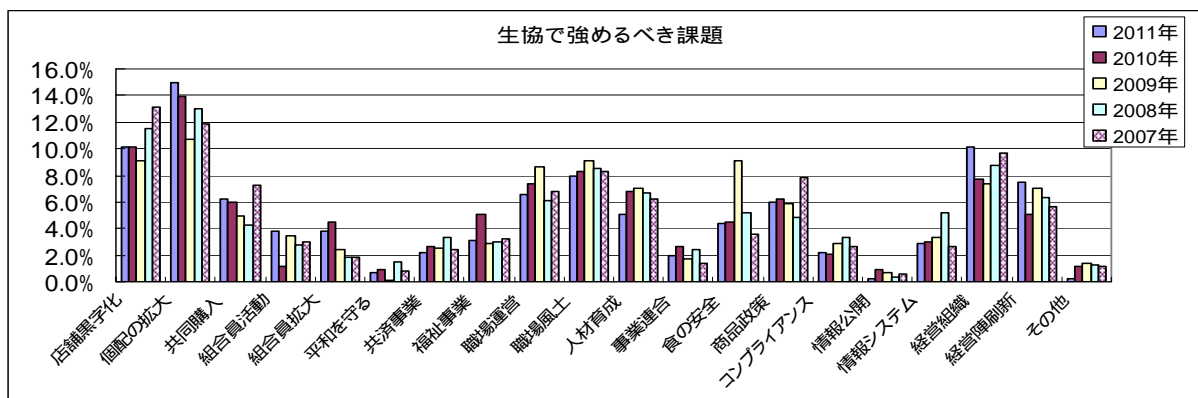
(6)11年春闘で最も充実させたい項目

第1位「賃上げ(ベアの獲得)」22.0% 第2位「有給休暇取得の向上」15.4% 第3位「賃金・人事制度改革」11.0%となっています。2007年以降「賃上げ(ベアの獲得)」が第1位であり、引き続き賃金要求が高いことを示しています。2010年に第5位だった「有給休暇取得の向上」は前年より7.7%増加しています。年休の取得が難しくなったのでしょうか。「職場運営の改善」は8.6%(前年8.0%)で年々ウエイトを高めています。



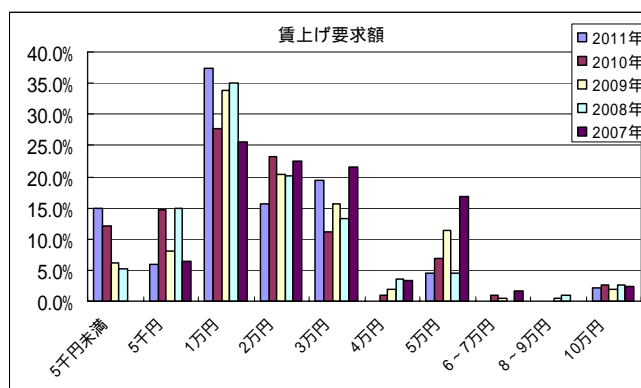
(7)生協で強めるべき課題

第1位「個配の拡大」15.2%(前年13.9%) 第2位「店舗事業の強化」10.7%(前年10.1%) 第3位「経営組織の見直し」10.4%(前年7.7%)となりました。第4位は「職場風土改革」7.5%(前年8.3%)で3位と4位が入れ替わっています。事業課題に続いて「経営組織の見直し」「職場風土改革」が強めるべき課題として挙げられるのは、職場の閉塞感のあらわれでしょうか。



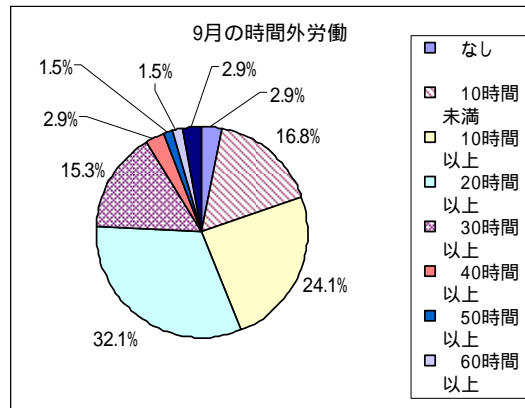
(8)賃上げの要求額

「1万円」37.3%(前年27.6%) 「2万円」15.7%(前年23.3%) 「3万円」19.4%(前年23.3%) 「5千円未満」14.9%(前年12.1%)の順となりました。昨年多かった「5千円」(前年14.7%)は6.0%となりました。昨年「5千円」と答えた人が「5千円未満」と「1万円」にシフトしたのでしょうか。アンケート結果を単純に集計すると、11年度の要求額は、16,366円(前年16,947円)になります。



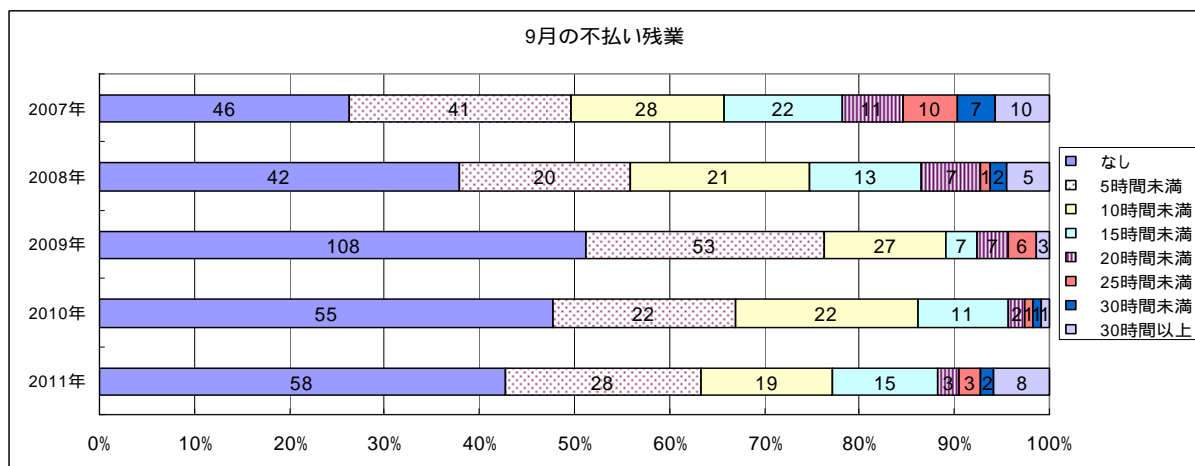
(9)9月の時間外労働

「20 時間以上」32.1%(前年 24.6%) 「10 時間以上」24.1%(前年 28.8%) 「10時間未満」16.8%(前年 22.9%)の順となっています。「残業なし」の回答が2.9%(前年 2.5%)と若干前年を上回っていますが、全体的には残業時間の増加傾向が読み取れます。過労死の認定基準となる「80 時間以上」の回答が 2.4%(前年 0.8%)あり、過労死予備軍ともいえる人が推計で 14 名程度といることに注意が必要です。さらに、厚生労働省の過労死認定基準で「業務との関連性が高まる」とされている「週 45 時間以上」の時間外労働があるとの回答は6%程度あり、推計で27 名程度いることとなります。



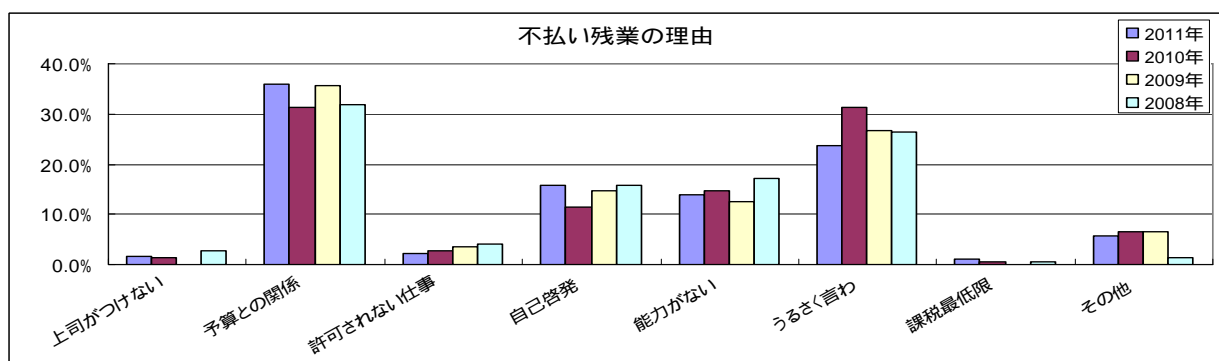
(10)9月の不払い残業

「5 時間未満」と「15 時間未満」が若干増えてそれぞれ 20.6%(前年 19.1%)と 11.0% (前年 9.6%) 「10 時間未満」は 5 ポイント減って 14.0%(前年 19.1%)でした。「不払い残業なし」は、2007 年から 09 年までは増加していましたが、09 年以降減り続けて 42.6%(前年 47.8%)にとどまりました。「30 時間以上」との回答が 5.9%ありました。



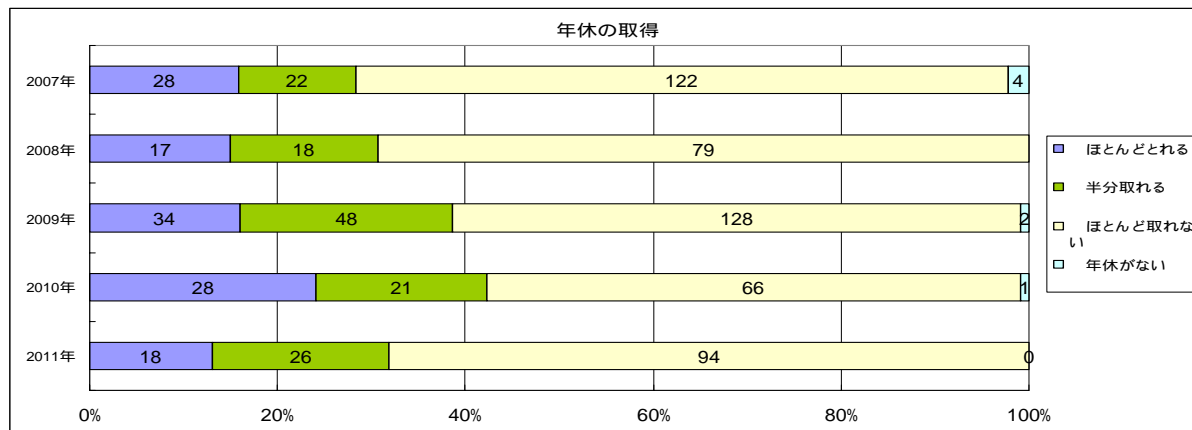
(11)不払い残業になる理由

第 1 位は「予算の関係でつけられない」で 36.0%(前年 31.3%)の仲間が答えています。続いて「うるさく言われる」23.8%(前年 31.3%)、「自己啓発のつもり」15.9%(前年 11.3%)でした。「経費削減」が声高に叫ばれる中で、残業予算の統制を理由とした上司からの執拗な「注意」が労働者をして「不払い残業」にはしらせているようです。サービス残業をする以上「自己啓発」と割り切るしかないのでしょうか。



(12) 年次有給休暇は取れているか

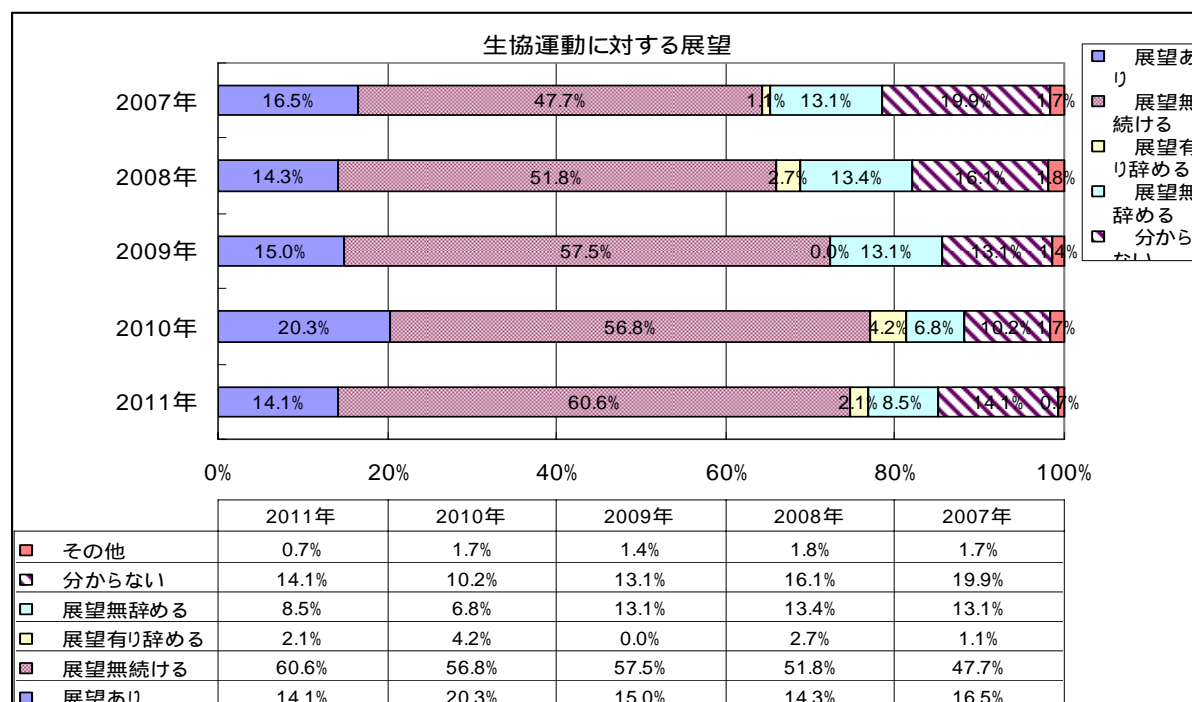
「ほとんど取れる」が11.1%減少し13.0%(前年24.1%)、「ほとんど取れない」が11.2%増加し68.1%(前年56.9%)となっています。年休がとりにくい状況が浮かび上がっており、これが「11年春闘で実現したいこと」に「有給休暇の取得向上」が挙がった理由でしょう。しかし、経年でみると10年が少し改善しただけで、むしろ通年のレベルに戻ったということではないでしょうか。



(13) 生協運動についてどう考えるか(将来展望)

「展望があり働き続ける」は6.2%減少して14.1%(前年20.3%)、「展望はあるがやめたい」は2.1%減少して2.1%(前年4.2%)でした。「展望はないが働き続ける」は3.8%増えて60.6%(前年56.8%)、「展望がなくやめたい」は1.7%増えて8.5%(前年6.8%)でした。7割近い仲間が「展望がない」と考えており、「やめたい」という仲間が1割以上あるという職場の閉塞感がにじみ出ています。

年齢層でみると「展望があり働き続ける」が最も多いのは30～34歳で25.0%、続いて45～49歳で18.0%、25～29歳16.7%となっています。「展望がなくやめたい」が最も多いのは40～44歳で15.4%、続いて50～54歳13.3%、45～49歳8.0%となっています。40歳以上の最も人数の多い年齢層で閉塞感が強いようです。



(14) 展望がないと答えた理由

「将来性と安定性に疑問」28.7%(前年27.3%) 「理事会の政策」19.7%(前年22.0%) 「処遇・労働条件」

18.6%(前年 18.7%)の順になっています。「生協らしさが実感できない」は昨年より 2.1%増え 18.1%(前年 16.0%)になっています。

年齢層別に見ると、25～54 歳では「将来性と安定性」が高位を占めていますが、30～34 歳では「処遇・労働条件」37.5%と第 1 位に、「職場運営」25.0%が第 2 位になっており、他の年齢層と異なる傾向を示しています。

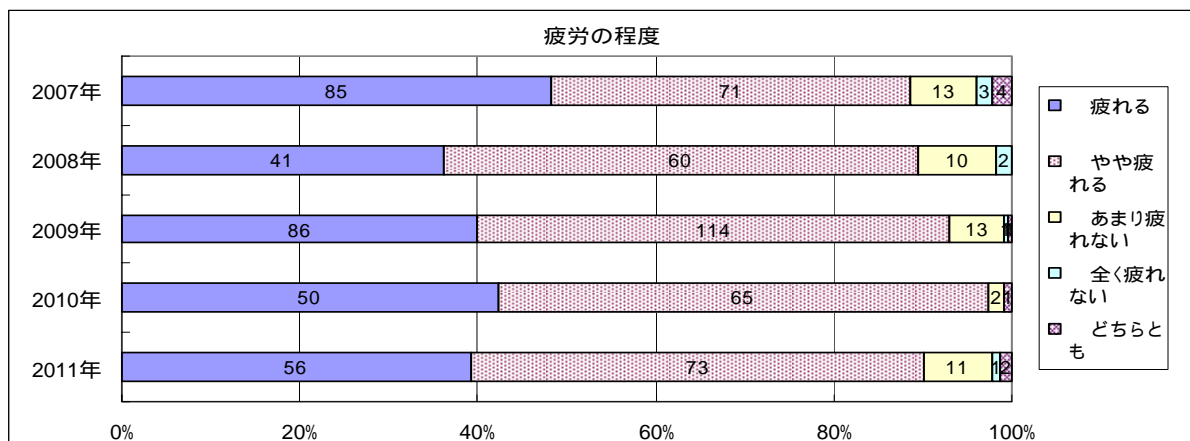
	2011年	2010年
生協らしさ	18.1%	16.0%
将来性	28.7%	27.3%
理事会政策	19.7%	22.0%
職場運営	13.3%	14.7%
処遇・労働条件	18.6%	18.7%
その他	1.6%	1.3%

(15) リストラや倒産による雇用不安

「ある」60.8%(前年 66.9%) 「ない」16.1%(前年 12.7%) 「わからない」23.1%(前年 20.3%)となっています。年齢層別では、25～29 歳で「ある」が 33.3%で「ない」の 50%を下回っている以外は 54 歳までのすべての年齢層で「ある」が圧倒的に多くなっています。

(16) 普段の仕事でどの程度疲れるか

「疲れる」39.2%(前年 42.4%)、「やや疲れる」51.0%(前年 55.1%)と、何らかの疲労感を訴える人は約 9 割を占めています。しかし、それぞれ前年を下回っており「あまり疲れない」7.7%(前年 1.7%)、「全く疲れない」0.7%(前年 0.0%)など、疲れを訴える声は減少し、「疲れない」との声は増えています。仕事のスタイルは大きく変わっていないのですが、もう「疲れ」さえ感じなくなったのでしょうか。年齢層別での有意な差はありませんでしたが、「とても疲れる」と回答比率が最も高かったのは 26～29 歳で 66.7%、次いで 30～34 歳・40～44 歳で 50.0%となっています。現場の中堅を担う世代に疲労感が強いように思われます。



(17) 消費税は何%にすればよいか

「5%」47.2%(前年 41.0%)、「7%」26.8%(前年 18.8%)、「0%」「わからない」ともに 9.9%となっています。前年は「0%」が 23.9%と第 2 位でした。「現状よりも上げて欲しくない」という思いのあらわれとも読めますが、「7%」との回答が前年を大きく上回っているのが気になります。参議院選挙を前後して、マスコミ各社が一斉に「消費税増税」を云々しましたが、その影響を強く受けているといえます。

	2011年	2010年
0%	9.9%	23.9%
3%	6.3%	11.1%
5%	47.2%	41.0%
7%	26.8%	18.8%
わからない	9.9%	5.1%
計	100.0%	100.0%

(18) 憲法 9 条の改定についてどう思うか

「改定すべきではない」36.8%(前年 51.8%)、「改定すべき」13.2%(前年 14.9%)と積極的な意見表明はともに減少しています。ただ、「改定すべきではない」が 15%も減少しているのが気になります。この間の国際情勢等の変化と労働組合が憲法学習を積極的に進めてこなかったことの影響でしょうか。

	2011年	2010年
改定すべきでない	36.8%	51.8%
改定すべきでない	13.2%	14.9%
わからない	33.1%	26.3%
どちらともいえない	16.9%	7.0%
計	100.0%	100.0%

時給者の集約結果の概要

(1) 家計の収入源

2011年度の調査は別表のとおりです。パートでありながら自分の収入で生活している仲間が13.2%(前年14.4%)あります。厚年有では18.3%、厚年無では9.7%です。「一人で(扶養有)」の回答が5.6%ありますが、パートの収入だけでは生活はかなり厳しいと思われ、ダブルワーク・トリプルワークをしているのでしょうか。

厚生年金加入	2011年	2010年
一人で(単身)	7.6%	7.9%
一人で(扶養有)	5.6%	6.5%
共働き(一方バ)	67.6%	66.2%
共働き(ダブル)	0.7%	1.3%
3人以上	9.2%	11.0%
その他	9.3%	7.1%
計	100.0%	100.0%

(2) 年収は前年に比べてどうか

時給者全体では、「増えた」は8.6%と前年を0.6%、「減った」は45.5%と前年を1%上回り、変わらないが41.5%と前年を1.5%下回っています。厚年有では、「増えた」が7.1%で1.2%増、「減った」が45.4%で5.3%減になっています。労働時間の増加等の影響があったのでしょうか。厚年無では、「増えた」は9.7%で0.2%増、「減った」は45.6%で5.4%増、「変わらない」は40.5%で5.1%減でした。

非正規全体	2011年	2010年
増えた	8.6%	8.0%
減った	45.5%	44.5%
変わらない	41.5%	43.0%
わからない	4.4%	4.5%
計	100.0%	100.0%

(3) 生活実感は？

「ややゆとりがある」「かなりゆとりがある」も若干減少していますが、「かなり苦しい」5.2%減、「やや苦しい」0.4%減で「まあまあだ」が6.5%増となっています。生活実感はやや緩和しているようです。

非正規全体	2011年	2010年
かなり苦しい	32.7%	37.9%
やや苦しい	42.5%	42.9%
まあまあだ	22.7%	16.2%
ややゆとりがある	2.0%	2.4%
かなりゆとり	0.2%	0.6%
計	100.0%	100.0%

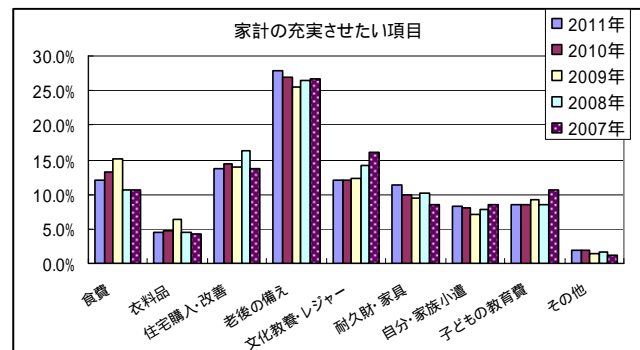
(4) 家計の現状はどれか？

2009年度から追加された項目です。「収入が減り支出の節約や貯蓄に回す分を減らしている」が年々増加し40.2%(前年37.8%)、続いて「支出の大幅切り詰めや預貯金を取り崩している」28.0%(前年37.2%)、「今のところ収入は減っていないが今後の生活に不安を感じている」が25.6%(前年21.3%)となっています。「貯金を取崩している」との回答が年々減少しているのは、収入に見合った生活レベルを切り下げたか、それとも取り崩す貯金が無くなったのでしょうか。

非正規全体	2011年	2010年	2009年
支出切詰め・貯金取崩	28.0%	37.2%	41.2%
支出節約・貯金分減少	40.2%	37.8%	34.3%
収入は減らないが不安	25.6%	21.3%	19.2%
収入減らないし心配なし	3.9%	2.6%	4.9%
その他	2.4%	1.1%	0.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%

(5) 家計支出の中で充実させたい項目

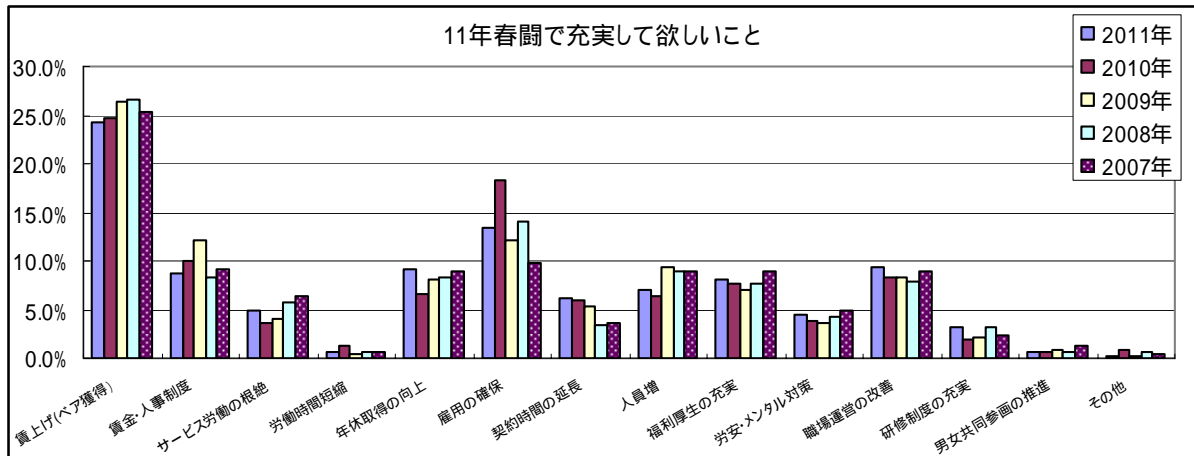
第1位「老後の備え」27.9%(前年26.9%) 第2位「住宅購入・改善」13.7%(前年14.4%) 第3位「文化・教養・レジャー費」と「食費」12.0%の順で、「老後の備え」は5年連続不動の第1位です。「住宅の購入・改善」は、回答者の60%以上が50歳以上なので、バリアフリーへの改修でしょうか。



(6) 11年春闘で最も充実させたい項目

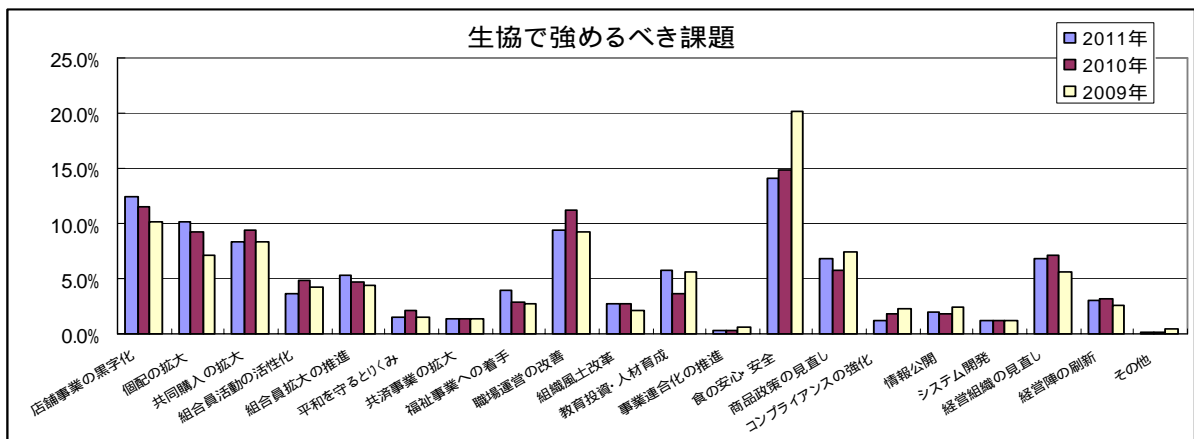
第1位「賃上げ(ベアの獲得)」24.3%(前年24.7%) 第2位「雇用の確保」13.3%(前年18.2%) 第3位「職場運営の改善」9.4%(前年8.2%)となっています。ノドモト過ぎれば...でしょうか、「雇用の確保」は4.9%減少、昨年3位だった「賃金・人事制度改革」も1.4%減少しています。厚年生の有無別では、1位と2位は同じで

すが、厚年有では「職場運営の改善」10.2%が第3位に、厚年無では「年休取得の向上」10.5%が第3位になっています。



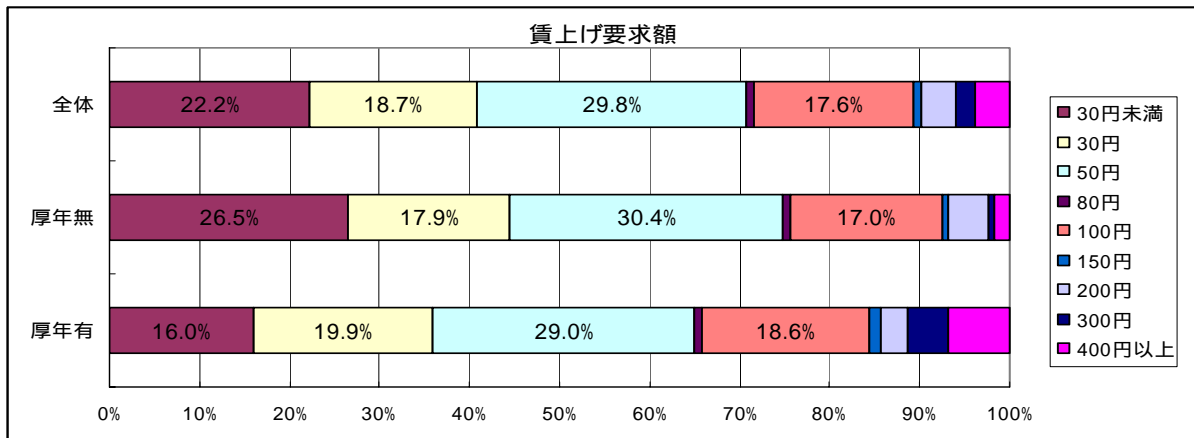
(7) 生協で強めるべき課題

第1位「食の安全・安心の強化」14.2%(前年 14.9%) 第2位「店舗事業の強化」12.4%(前年 11.4%) 第3位「個配の拡大」10.1%(前年 9.2%)でした。昨年は「職場運営の改善」が第3位でした。厚年有は正規と同様1位・2位が事業課題であり、厚年無との意識の違いが現れています。



(8) 賃上げの要求額

「50円」29.8%(前年 29.3%) 「30円未満」22.2%(前年 21.2%) 「30円」18.7%(前年 16.3%) 「100円」17.6%(前年 19.0%)の順となりました。アンケート結果を単純に集計すると、11年度の要求額は、76.5円(前年 79.4円)になります。



(9)9月の時間外労働

「なし」は32.2%(前年36.3%)にとどまり、7割近いパートが何らかの残業をしています。10時間未満が51.6%(前年54.8%)になっています。厚年有では、「10時間未満」が39.8%にとどまり、「10時間以上」から「30時間以上」との回答が15.7%(前年10.0%)あります。「60時間以上」との回答も3.9%(実数10人)ありました。厚年無では、「なし」は28.2%ですが、「10時間未満」が60.2%になっていますが、「60時間以上(80時間以上含む)」との回答は0.9%(実数3人)ありました。いったいどんな仕事をしているのでしょうか。

	厚年有	厚年無	全体
なし	37.4%	28.2%	32.2%
10時間未満	39.8%	60.2%	51.6%
10時間以上	9.4%	8.1%	8.7%
20時間以上	2.8%	2.0%	2.3%
30時間以上	3.5%	0.6%	1.8%
40時間以上	0.4%	0.0%	0.2%
50時間以上	2.8%	0.0%	1.2%
60時間以上	3.9%	0.6%	2.0%
80時間以上	0.0%	0.3%	0.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%

(10)9月の不払い残業

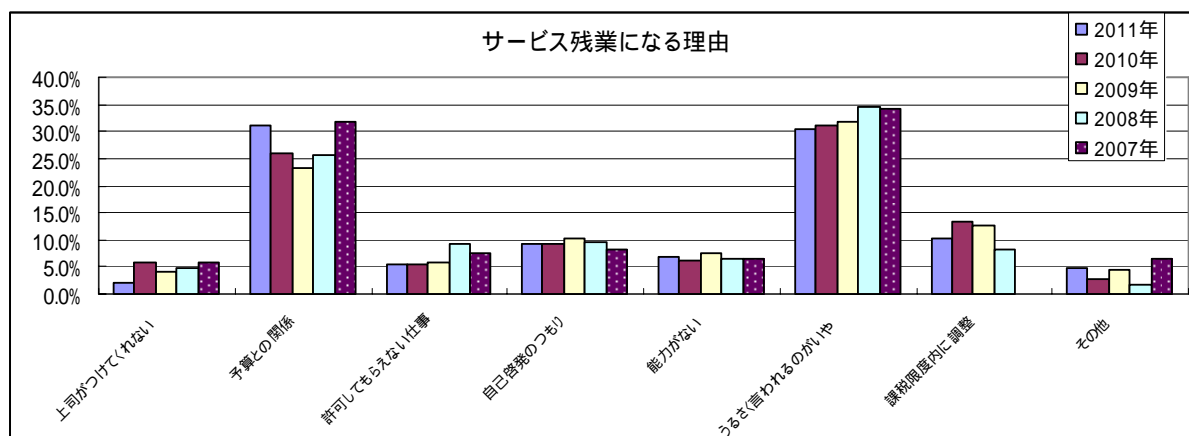
「なし」79.2%(前年87.4%)「5時間未満」12.9%(前年9.4%)で92%を占めています。昨年に比べて時間はわずかですがパートのサービス残業が増えているようです。ただし、一方で「25～30時間未満」「30時間以上」があわせると3%(実数18人)あり問題もあります。

	厚年有	厚年無	全体
なし	74.3%	82.7%	79.2%
5時間未満	13.0%	12.9%	12.9%
5～10時間未満	3.6%	1.8%	2.5%
10～15時間未満	1.6%	0.6%	1.0%
15～20時間未満	0.4%	1.2%	0.8%
20～25時間未満	0.4%	0.6%	0.5%
25～30時間未満	2.8%	0.3%	1.3%
30時間以上	4.0%	0.0%	1.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%

(11)不払い残業になる理由

第1位は「予算の関係でつけられない」で31.1%(前年26.1%)第2位は「うるさく言われるのがいや」30.3%(前年31.3%)、第3位は「課税限度以内に調整」10.1%(前年13.4%)でした。「上司がつけてくれない」は前年の5.9%から2.2%減少しました。あからさまなサービス残業の強制は少なくなったが、「経費削減」が声高に叫ばれる中で、残業予算の統制を理由とした上司からの執拗な「注意」や「指導」が労働者をして「不払い残業」にはしらせているのでしょうか。

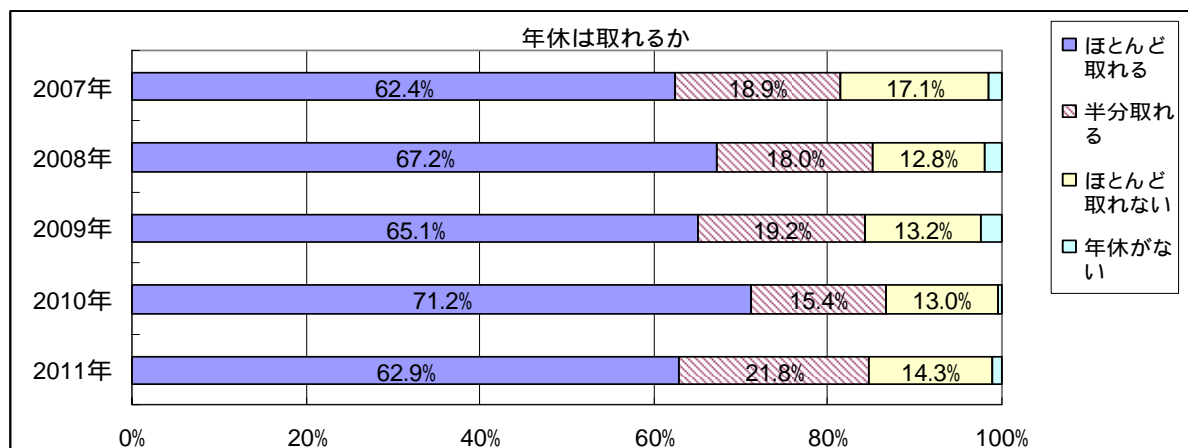
	厚年有	厚年無	全体
上司がつけてくれない	2.1%	2.3%	2.2%
予算との関係	37.1%	26.7%	31.1%
許可してもらえない仕事	4.6%	6.1%	5.5%
自己啓発のつもり	10.8%	8.0%	9.2%
能力がない	4.1%	8.8%	6.8%
うるさく言われるのがいや	32.0%	29.0%	30.3%
課税限度内に調整	3.6%	14.9%	10.1%
その他	5.7%	4.2%	4.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%



(12)年次有給休暇は取れているか

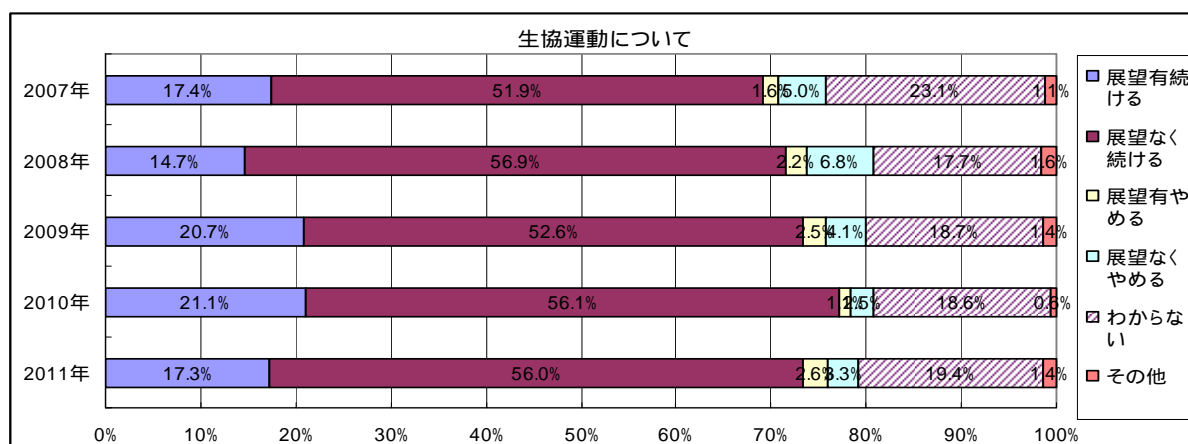
「ほとんど取れる」が8.3%減少し62.9%(前年71.2%)、「半分取れる」が6.4%増加し21.8%(前年15.4%)両方で84.7%(前年86.6%)を占めています。「ほとんど取れない」が1.3%増加し14.3%(前年13.0%)になっており、有給休暇は全体的に昨年に比べて取りにくくなっているようです。過去5年間でみれば「例年並み」

ということでしょうか。



(13) 生協運動についてどう考えるか(将来展望)

「展望があり働き続ける」は3.8%減少して17.3%(前年21.1%)、「展望はあるがやめたい」は1.5%増加して2.6%(前年1.1%)でした。「展望はないが働き続ける」は0.1%減って56.0%(前年56.1%)、「展望がなくやめたい」は0.8%増えて3.3%(前年2.5%)でした。6割近い仲間が「展望がない」と考えています。



(14) 展望がないと答えた理由

「将来性と安定性に疑問」26.8%(前年28.3%)「生協らしさ」22.6%(前年20.2%)「職場運営」22.1%(前年22.5%)の順になっています。

非正規全体	2011年	2010年
生協らしさ	22.6%	20.2%
将来性と安定性	26.9%	28.3%
理事会の政策	14.8%	14.8%
職場の運営	22.1%	22.5%
処遇他労働条件	11.4%	11.3%
その他	2.1%	2.9%
計	100.0%	100.0%

(15) リストラや倒産による雇用不安

「ある」50.6%(前年54.8%)「ない」21.0%(前年18.6%)「わからない」28.4%(前年26.6%)となっています。正規と比べて「ある」の比率が少ない(正規60.8%)のは予想外です。厚年の有無別では、雇用不安が「ある」との回答はどちらも前年を下回っていますが、厚年有が若干高く57.0%(前年60.5%)厚年無が46.2%(前年51.0%)となっています。物流改革などが一段落した影響でしょうか。

非正規全体	2011年	2010年
ある	50.6%	54.8%
ない	21.0%	18.6%
わからない	28.4%	26.6%
計	100.0%	100.0%

(16) 普段の仕事でどの程度疲れるか

「疲れる」23.2%(前年 25.9%)、「やや疲れる」62.1%(前年 60.2%)と、何らかの疲労感を訴える人は約 85%を占めています。しかし、「疲れる」は前年を下回っています。厚年無・厚年有・正規と労働時間が長くなるに従って「疲れる」の回答が増えています。

非正規全体	2011年	2010年
とても疲れる	23.2%	25.9%
やや疲れる	62.1%	60.2%
あまり疲れない	11.1%	11.6%
まったく疲れない	0.7%	0.2%
どちらともいえない	2.9%	2.1%
計	100.0%	100.0%

(17) 消費税は何%にすればよいか

「5%(現状でよい)」61.7%(前年 57.1%)、「0%(なくす)」14.0%(前年 18.0%)、「3%(下げる)」11.4%(前年 14.0%)となっており、正規労働者の受け止めと違いが見えます。マスコミの影響は受けながらも、家計を預る女性労働者が圧倒的だからでしょうか。

非正規全体	2011年	2010年
0%(なくす)	14.0%	18.0%
3%(下げる)	11.4%	14.0%
5%(現状でよい)	61.7%	57.1%
7%以上(上げる)	5.7%	3.4%
わからない	7.2%	7.5%
計	100.0%	100.0%

(18) 憲法 9 条の改定についてどう思うか

「改定すべきではない」50.8%(前年 52.0%)、「改定すべき」4.8%(前年 4.3%)となっており、「改定すべき」13.2%の正規とは意識が異なるようです。「わからない」39.4%(前年 38.8%)は、この間の国際情勢等の変化と労働組合が憲法学習を積極的に進めてこなかったことの影響でしょうか。

非正規全体	2011年	2010年
改定すべきでない	50.8%	52.0%
改定すべき	4.8%	4.3%
わからない	39.4%	38.8%
どちらでもない	5.0%	4.9%
計	100.0%	100.0%